

崇福寺

宗派：浄土宗西山深草派、山号：蘆菴山
本尊：阿弥陀如来
創建：898（昌泰元）年

崇福寺は蘆菴許應院ともいう。本山は京都の三条にある誓願寺で、898（昌泰元）年に延喜帝の勅願の道場として建立されたので、昌泰寺とも言われている。始祖の名前ははっきりしないが、比叡山の天台宗系の寺で、応永年間（1394年～1427年）に中島城主の由良光家が天台宗昌泰寺を改宗させて、天祐竜山を開山として創建したと言われている。京都円福寺の末寺として1449（宝徳元）年にその名が記録されている。

深草派三河12本山の一つで1602（慶長7）年6月16日付で朱印地30石、末寺30、孫寺32を有する中本山で三河三檀林のひとつ。末寺の大部分は幡豆郡に所在した。1944年から1945年の1年間は常に300人の僧が崇福寺で修業したようである。

崇福寺にある鎌倉時代製作の絹本著色当麻曼陀羅、室町時代製作の絹本著色十王図は岡崎市文化財に指定されている。以下にそれを転記した。

・岡崎市指定文化財 崇福寺

岡崎市指定文化財 崇福寺

絵画 絹本著色当麻曼荼羅 一幅

観無量寿経（かんむりょうじゅきょう）の経説を拠りどころとし、善導大師の著述「観経四帖疏」にもとづいて図絵された観無量寿経変相図。奈良県当麻寺（たいまじ）所蔵の根本曼荼羅（こんぽんまんだら）の写しであり当麻寺の三分の一の縮図である。鎌倉時代、十四世紀の作。

絵画 絹本著色十王図 十幅

冥土（めいど）で亡者（もうじゃ）の罪を裁く十人の王を一人一幅ずつ描いている。亡者は死後七日、二七日・・・と次々に冥界で裁判を受け、罪に応じた地獄の責め苦を受ける。初七日秦広（しんこう）王（不動）、二七日初江王、三七日宋帝王（文殊：もんじゅ）、四七日五官王（普賢：ふげん）、五七日閻魔（えんま）王（地蔵）、六七日變成（へんじょう）王（弥勒：みろく）七七日泰山（たいざん）王（薬師）、百ヶ日平等王（観音）一周忌都市王（勢至）、三回忌五道転輪王（阿弥陀）となっている。

室町時代 十四世紀の作

昭和六十二年七月十五日指定 岡崎市教育委員会

崇福寺の境内には、カマクラヒバがあり、樹齢は不明であるが、かなりの年数を経た古木である。庭の景観樹として仕立てられ、ヒバの特性を活かした均整のとれた樹姿である。樹高9.5m、幹回り1.2m、根回り1.5m、枝張り4.5mである。ヒバは本堂の西側で、周囲を庫裡に続く建物で囲まれた中庭に位置する。崇福寺の中庭にあるため、寺の建物の外側からは見ることができない。岡崎市のふるさとの名木として指定されている。以下にそれを転記した。

ふるさとの名木 「崇福寺のひば」みんなで大切に保存しましょう
指定番号 第24号 指定の日 平成3年2月22日 岡崎市

崇福寺は1874（明治6）年には第41番小学中島学校があり、昭和初期には、六ッ美村立六ッ美保

育園があった。崇福寺には杉浦製糸の創始者杉浦家の大きな墓（1925（大正14）年9月1日建立）と鶴田勝蔵（1910（明治43）年7月21日没）の墓がある。また、八幡社を改築したと言われる中島與五郎の墓があると伝えられている。

崇福寺には句碑があり、次に示すような言葉が刻まれている。

・句碑（表面）

句碑はくずし字で刻印されているため、解読は岡崎市美術館の協力を得た。



崇福寺句碑 160524

銭洗う有酔人や花かえて 甘泉
酉年翔べ■幸せ喜寿の春 松山
結ばゞ寺苑にしるす喜寿の春 完静
古里や母の句ひのさくら餅 誠水

(注) ■の文字は判読できない。

・句碑（裏面）

喜壽還暦に当たる願主の懇望に依り当山の一隅に
此の碑を建て麗しい俳蹟を永遠に刻み
此の一燈を点ずる更に切磋琢磨し合つて二燈三燈となり
その道に貢献出来るよすがとも成れば幸いである
昭和五十六年五月吉日
当山貫主大空覚温書之
願主 甘泉 織田 昇司
松山 矢沢 鉦松
完静 杉浦 静
誠水 清水初太郎

[天祐竜山 (1370~1487)]

天祐竜山は1370（応安3）年に赤松師範の8男として播磨国白旗城に生まれる。2歳で父を失って叔父範貞に養われ、8歳で五箇荘滝口法福寺毫空について得度。その後上洛して円福寺5世堯慧に師事した。1406（応永13）年法福寺に帰り約40年間住持であったが、1441の嘉吉の乱で赤松氏が滅亡すると三河に来住し、占部変相寺に寓居した。これを知った中島城主由良光家は天台宗昌泰寺を改宗させて崇福寺とし、天祐を開山としたという。常に学徒300を擁する学場となり、末寺は70をこえたという。1487（長享元）年11月11日、118歳で没したと言われている。



崇福寺 20150806



崇福寺 20150806



160404 崇福寺桜



崇福寺ひば 20150806

崇福寺ひば
20150806



崇福寺ひば
20150806



崇福寺 杉浦家墓



崇福寺 鶴田勝蔵の墓



崇福寺 鶴田勝蔵の墓

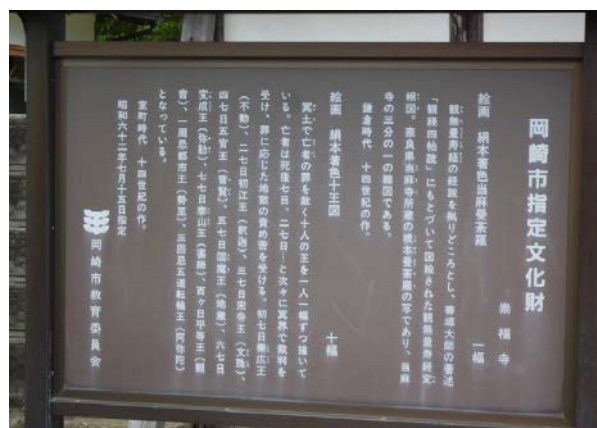


崇福寺 中島與五郎の墓



柩内(4つ)のどれかと言われている

六ッ美村誌には中島與五郎の墓について、次のように記載されている。「五輪形石碑 臺石方二尺高三尺五寸」



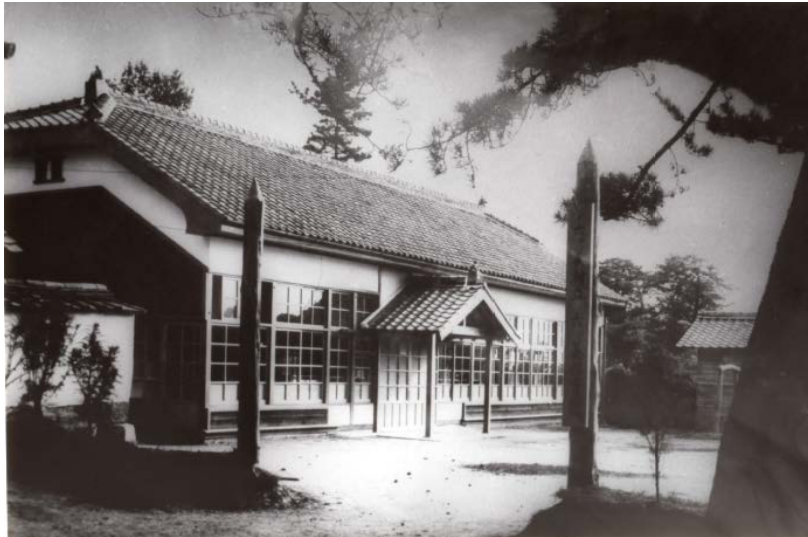
岡崎市文化財指定 20160806



崇福寺 1953(昭和28)年 つるや呉服店提供



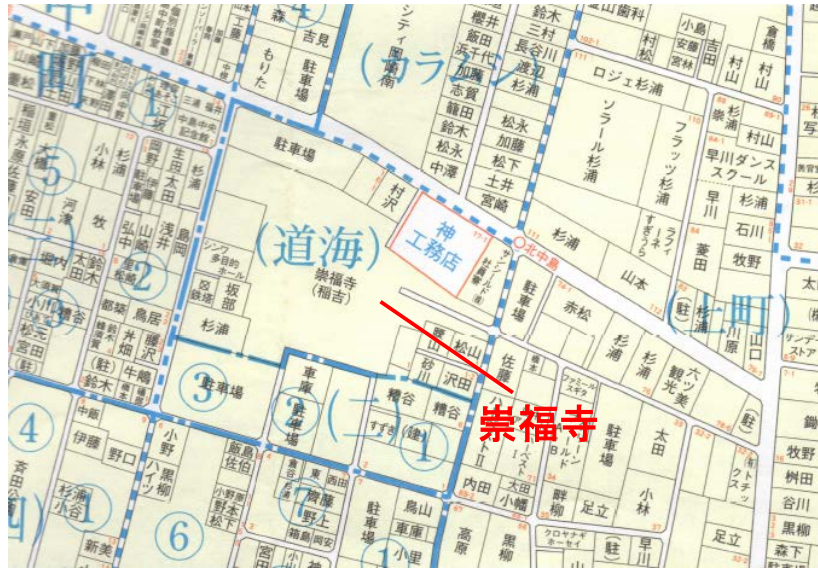
1952(昭和27)年 六ッ美村立六ッ美保育園 崇福寺玄関より
保育園側 平野敦子氏提供



1951(昭和26)年 六ッ美村立六ッ美保育園 崇福寺境内 平野敦子氏提供



風景 崇福寺遠景 黒柳岳彦氏提供



本項は以下の資料を引用している。

[わたしたちのふるさと 六ッ南 114 選]

監修者 総代会長 平井 良美

社教委員長 近藤 武美

著者 岡崎市立六ッ美南部小学校 6 年児童 114 名

(平成 25 年 3 月 19 日卒業)

編者 岡崎市立六ッ美南部小学校 6 年担任

権田 康成、加納 隆、坂井 純、榊原 美佐子、山本 佳愛

発行日 2013 (平成 25) 年 3 月 1 日 初版発行

印刷所 ブラザー印刷株式会社

製本 ブラザー印刷株式会社

発行 岡崎市立六ッ美南部小学校